

鎮魂劇 「四つの物語」

作 井伏銀太郎

「かえりびな」

「天空へ(そらへ)」

「冬の夜の夢 「忘れられた子供達」

「SAKURA 「忘却の海」

# 「かえりびな」

震災から数年後の宮城県の住宅

3月3日 桃の節句

登場人物

還暦を迎えた母

娘

机二つ並べて「かえりびな」の雛人形を作っている。  
母が自分で作って、娘がそれを見ながら、真似して作っている。

1 P

母／ (鼻歌) ♪ あかりをつけましょ ぼんぼりに

娘／ (鼻歌) ♪ お花をあげましょ 桃の花

母／ 昔さ、「桃の花」っていう軟膏あったよね。

娘／ 桃の花？

母／ うん。手があかぎれになるとよく使ってたの。

娘／ 知らんよ、いつの時代？昭和でしょう。

母／ 昭和だけどさ……やっぱり桃の花のエキス入ってんのかな？

娘／ だから、知らんって。

母／ あんた、ちっちゃい頃、よく塗ってあげたでしょ。

娘／ 記憶にございません。

母／ うっそー。

娘／ 昭和に生きてないし……

母 塗ってあげたのは平成だよ。今でも売ってるのかな？  
娘 だから知らんって(作りかけの雛人形見せて)ここは？こんな感じでいいの？  
母 うん。もうちよつと、衿を真ん中寄せて。

(娘携帯で調べて)

娘 へー、売ってるわ「桃の花」、アマゾンで。  
母 あらアマゾン屋さん。

娘 ほんっとになんでも売ってるねーアマゾンは。  
母 すごいね。仮面ライダーも売ってるからね。

娘 なに仮面ライダーアマゾンって言いたいの？  
母 わかった？

娘 また出た昭和。  
母 なに言ってるんの。仮面ライダーアマゾンはね、他のライダーと違うんだからね。  
娘 へ。

娘 戦う相手が怪人でなくて獣人だよ。けもののひとつで書くさー。  
母 モグラ獣人っていうのと仲良くなってねー。

娘 はー。私が見たのは仮面ライダードライブでさー、ライダーは竹内涼真だったね。  
母 私はオタギリジョーが最後かな。

娘 (笑)母さんと仮面ライダー談義するとは思わなかったわ。  
母 父さん好きだったからなー。

娘 え、まじで？！  
母 そうだよ。なんつったって、変身ベルト持ってたぐらいだからね。

娘 へー、今もあるの？  
母 ……流されちゃったよもう、津波で。

娘 ………そっか。  
母 ……

娘 憶えてない？あんた変身ベルトして変身ポーズとってる写真あったでしょ。  
母 それも記憶にございません。

娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母／娘／母

写真も流されちゃったからなー。

ねねね、どんなポーズ？変身ポーズって。

ライダー1号の本郷猛だよ。

やってみて。

えーやるの？

はいやってやって。ほら立って。

(母立って) ライダー……変身トオー！ちよつと、見てないであんたもやる。

ええええええ？

ほら。

(娘立って) ライダー……変身トオー！

あら上手いねー！誰に似たんたる？

誰って、父さんしかいないさ。まぎれもなく。

でも本当に好きだったんだからさ。

仮面ライダー？

うん。小学校の時の将来の夢だもん、父さんの。

え?!?!?!仮面ライダーが？

うん。初めてのデートの時ね、お茶飲んだ後、どこに行つたと思う？

ショッকারの本部に殴りこみ。

あんたもノリいいよね……エンドーチェーンの屋上ショーだよ。

仮面ライダーの？

うん。「なんで二人で来なくちやいけないの？」って聞いたらさ、

なんて？

「だってさー、いい大人が一人で来ると恥ずかしいだろ」って言うのよ。

いい大人が二人並んで見てる方がよっぽど恥ずかしいだろ！

だから私は恥ずかしかったんだけど父さんはさ、

父さんは？



娘／　　娘／　　娘／　　娘／　　娘／　　娘／　　娘／　　娘／  
うん。変身は出来なくても仮面ライダーなら、皆んなを助けなきゃってさ。  
どうだろうね〜。

思ったと思うよ。

なんか美化されてない？あまりにも。

ヒーローだな。今でも私の。父さんは。

あらー。喜んでるよー父さん。ほら、手止まってない。

お。（再度手を動かしながら）あと顔付けるだけだよね。

そこ一番大事だからね。「お人形は、顔が命ですから」

へえへえ。ってこれ顔ないじゃん（目鼻が描いてないため）

（しばらく人形に集中）

あれっ、何話してたんだっけ。

仮面ライダー？

その前。アマゾンだよアマゾン（携帯見る）えーっと、桃の花ハンドクリーム…

あっ入ってるよ、桃の葉エキスだって。あとオリーブオイル、各種ビタミン。

で、768円か安いなー、何、2000円以上まとめると送料無料。買う？

買うか。

私がプレゼントするよ、還暦祝いね。

ちよっと待ってなに、娘から母親への還暦祝いが768円なの？

他になんか欲しかったら2000円で送料無料だよ。

だから2000円でまとめろってこと？

いやいや、だからこうやって還暦祝いのお雛様をね、

「かえりびな」を作ってさしあげてるんじゃないですか。お母様。

作り方教えてんの私なんだけど。

まあ、そうだけど、（わざとらしく）ねえ、お母様、ここはどのように

いたすのてございますか？教えてくださいませませ。

（雛人形渡す）

母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／　母／　娘／

うざ！そしてなんか日本語ヘンなんだけど……もつと着物寄せて。そっか。かえりびなつてさ、還暦を迎えた女の人の初節句にさ、お雛様贈るんだよね。そうだよ。

「60年分の人生をリセットして新しい人生をスタートできる」だっけ。詳しいね。ググった。

あらヤホーじゃないんだ。

……でもなー……

なに？

んんん……

なに。言ったらいいさ。

かえりびなつてね。

うん。

いやー昔はね、離縁されて、里に帰って来た女の人のこともそう言ったんだって。それもググったの？

……まあ。

なーにゴモゴモしてんの。

何となく。

あのね、離縁を心配する前に結婚心配したら。

言われたくないねー。

いつまでも若くないんだから。

僕は子供でちゅ。

誰が僕。誰が子供。

母さんは？まだまだいけると思うよ、再婚すれば？

新しいスタートできればいいじゃん。

新しいスタートじゃないよ。



娘／ 娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／ 母娘／

『お雛様を雛祭りの後すぐに片付けないと婚期遅れるぞー』って言われて、誰に。

小学校ん時の友達。○○○ちゃん。

小学生で「婚期」なんて言葉知ってるの。まあ女の子はませてるからね。

『雛人形の呪い』って言われてさ。

そういうところは小学生だねー。それこそ昭和でないの？

えーでも本気にしたよー。

あの雛人形ね、お爺さんがあんたに買ってあげたんだよ、私の父さんが。

憶えてるよ。

無理して七段飾り買って来てさ、私には買ってくれなかったのに。

へー、そうだったの。

やっぱり孫は可愛いのかねーって思ったよね。

ふーん。

だから雛祭りまでは、あんたのために飾ってさ、その後は私のためについていうか、

自分のために飾ってたんだよね、せめて3月いっぱいって思ってたさ。

ほおお。女だねー。

なに男だと思ってたの？

男だったの？

アホ。……でも、申し訳ないとは思ってたんだ。

なにが。

もつと早く物置に片付けてればってさ。

もしかしたら、津波で流されなかったのかも知れないさ。

しょうがないよ、相手は津波なんだから。

(間)

今ね、震災で行方不明になった人に向けて「かえりびな」作ってる人たちがいるのね。



娘／／ 誰でもないって訳じゃないんだよ。  
母／／ ちよつと親戚当たってみる？  
娘／／ ホットケーキ！自分で探すからいいって。  
母／／ 自分で探せそうにないから言ってるんださ。  
娘／／ 母さんこそ探したら。  
母／／ ショートケーキ！  
娘／／ ホットケーキ！だろ  
母／／ ほか。  
娘／／ 還暦過ぎた老人がさ、伴侶探すって、最近多いらしいよ。  
母／／ ちよつとなに老人って。あんた私を老人って思ってるの。  
娘／／ 思ってるから言ってるんださ。若いねーぴちだねーギャルだねー。  
母／／ ちよつとそれもそれで説得力ないからやめて。  
娘／／ 前髪。パツツンだし。  
母／／ いーからもー！  
娘／／ でもさー、複雑なんだよねー。  
母／／ なが。  
娘／／ え。…母さんにはもう一回幸せになつて欲しいって思う反面さ、  
母／／ ずっと父さんのこと思つてて欲しいって思うしさ。  
娘／／ あら、十分幸せだよ。あんたとこうやって一緒に還暦祝いのかえりびな作つて、  
母／／ そんで一緒に仮面ライダーで盛り上がったさ。  
娘／／ 父さんいたら、もつと盛り上がったよね。  
母／／ 多分ね。三人で変身ポーズやったりしてね。  
娘／／ ヤバイ親子だねーそれ！  
二人／／ (笑)  
娘／／ (雛人形出して)どうかね。  
母／／ あら。…うん。いんじゃない、器用だねー意外と。

娘 意外とすか。

母 はい、こつちも出来た。

娘 おー！出来たねー。

(それぞれ、自分の男雛と女雛をテーブルに並べながら)

♪お内裏様(おだいらさま)とお雛様

♪二人並んですまし顔

娘 はい、あんたも早く自分のお内裏様みつけなよ(雛人形渡す)

母 私に？

娘 そうだよ。

母 サーンキュー！んじやこつちのお雛様が母さんで、こつちのお内裏様が父さんね。

娘 ライダー…変身！トオー！(やりながら雛人形渡す) はい、還暦おめでとう！

母 あらありがとー……ありがとね。

娘 かーらーのー……(足元の紙袋から取り出し)

母 ジャーン！白酒じゃなく白ワインと菱餅じゃなくショートケーキでございませう！

娘 (拍手しながら) あらー準備いいことー！さすが私の娘。

母 んじや飲むか！まだ明るいけど。

娘 おっ！のものも！

(テーブルの上を片付けながら)

♪お嫁にいらした 姉様に

♪よく似た官女の 白い顔  
ちよつと言つとくけどさ、誕生日は別だからねまた。六月は六月でやってよ。  
言うと思つたよ……わーかーりーまーしーたー！

終幕

## 天空へ(そらへ)

震災から10年目のコロナ禍の気仙沼の復興住宅 夕方、  
中央に大きなダイニングテーブル、その後ろに小さなテーブル  
左右に椅子が二つ

登場人物

女 内海恵美(夫を新型コロナウイルスで亡くした妻)

男 町田(冠婚葬祭の会社セレモニー立花の男)(女性でもいい)

女が消毒用アルコールでテーブルを拭いている  
玄関チャイムが鳴る

女/ はい (マスクを付けて玄関へ向かう) どうぞ

(先に立ち、葬儀社の男を招き入れる)

男/ 失礼します(遺骨をもって登場)

女/ ここでよろしいでしょうか(小さなテーブルへ)

男/ はい(敷物を敷き遺骨を置き、合掌)

少々お待ちください(玄関へ戻り大きなカバンを持って戻ってくる)

中から書類を取り出し(こちらが昨日のPCR検査の結果です。

女/ (確認し、女も書類を取り出し) 私のPCR検査の結果です。

主人とは3週間以上会っていませんから。

男/ (確認し) 伺っております、東京で感染されたんですよね

女／ はい建設現場の宿舎での感染でした。  
男／ わざわざ東京まで、ありがとうございます。  
女／ いいえ、セレモニー立花をご利用いただきありがとうございます。  
男／ 本日病院から、火葬場へとお供をいたしました。  
女／ 本当に、ありがとうございます。  
男／ (非接触体温計で体温を測り)36.2度です  
女／ じゃあ私も(体温を測ってもらおう)  
男／ (見て)35.9度です  
女／ お座りください  
男／ 失礼します、(座る)セレモニー立花の町田と申します(名刺を置き、お辞儀)  
女／ 内海です、ありがとうございます。(お辞儀)  
男／ お悔やみ申し上げます(お辞儀)  
女／ ご丁寧ありがとうございます(お辞儀)  
男／ 以前はご家族が濃厚接触者の可能性も多くて、PCR検査にも時間がかかりましたからね  
女／ ご遺骨は玄関先に置かせて頂くことも多かったです。志村さんのように  
男／ 志村さん？  
女／ はい、あのー、アイーン(真面目な顔で)  
男／ (女少し笑う)志村さんは偉大ですね、こんな時も笑ってしまうなんて  
女／ はい  
男／ 少し似てました  
女／ はい？  
男／ 主人が・・・  
女／ 志村さんに？  
男／ はい、バカ殿じゃ無く・・・若い頃の・・・  
女／ じゃあ、二枚目じゃないですか  
男／ そうですか？

男／ はい  
女／ そうですね

(間)

女／ コーヒーは大丈夫でしようか  
男／ はい、陰性も証明されていることですし、熱もない様ですので  
女／ 少々お待ちください(コーヒー豆を挽き始める)  
男／ 本格的ですね  
女／ 主人が挽きたてが好きだった物で  
男／ 気仙沼も近くなりましたね  
女／ はい、復興道路もつながりましたからね  
男／ 三陸湾岸道路ですね  
女／ 大島も橋で繋がりました、私はフェリーで行くのが好きだったんですけど  
男／ カモメにかっぱえびせんをあげて  
女／ では、早速ですが、打ち合わせの方、よろしいですか  
男／ はい、よろしくお願ひします  
女／ ご葬儀の方ですが  
男／ 電話でも、お話しした通り、このご時世なので、  
女／ 家族は主人と二人きりなので、お葬式はなしという事でお願ひします  
男／ 分かりました、ではお寺さんの方は：：お墓はどちらに  
女／ 津波でお寺も、お墓も流されてしまつて  
男／ そうだったんですか  
女／ 私は両親が行方不明で、主人の方は奥さんと娘さんが：：  
男／ ご主人の奥さん？  
女／ すみません、わかりにくいですね、私達、再婚なんですよ  
男／ ああ  
女／ お寺は再建されたんですけどね、お墓は行方不明の家族が見つかってから

建てようって思っていました

じゃあ、それまでは

骨は納骨堂で預かって頂けるそうです、あの、手元葬っていうんですか  
ずっと手元に置いておくものあるって伺ったんですが

はい、最近の色々ありましてね、森の中の大きな樹木の下で弔う樹木葬  
最近には海に花束と一緒に散骨する、海洋葬も増えていますね

(コーヒートを挽く手を止めて)やっぱり：海洋葬が一番いいんでしょうね  
奥さんと、娘さんが眠ってる海に：

(またコーヒートの準備しながら)でも、なんだか：、私一人が、残されるような気もして  
勝手ですよ

いいえ：

主人が、いつか、変わってしまった古里を空から眺めてみたいって言っていました

なら、お骨を小さなカプセルに入れて、まとめてロケットで打ち上げる

宇宙葬っていうのもありますが

宇宙葬ですか？

はい、成層圏をご遺骨が巡るんです

でも、一人じゃあ無いんですよ

はい、(小さく)団体旅行みたいなもんか：お一人がよろしいなら「天空葬」っていうのがございます

テックウソウ？

はい、天に空：：天空の城ラピュタの天空です

ああ：：ジブリの映画では一番好きです

そうですか：：私も一番好きです、何度も見ました

天空葬は元々、台湾やタイなどのランタン飛ばし、スカイランタンというのがありまして  
ほら、ご供養は日本だと灯籠流しや精霊流し(しょうろうながし)など海に流すんですが

あちらでは空に飛ばすんですね。

それで天空葬ですか？

男／ はい「天空葬」はロケットと違ってゆっくり空に登って行って、なんていうか  
天に向かつて昇天していくようにも思えてきます。  
女／ ちょうど見本もありますので、ご覧になりますか  
男／ よろしければ、是非：  
女／ じゃあ、後ほど  
男／ 町田さんはこのお仕事は長いんですか  
女／ 半年ぐらいになりますかね コロナの影響で変わりました  
男／ じゃあ、以前は飲食関係とか  
女／ いいえ同じ会社で部署が変わりました、ずっと結婚式場担当でしたが  
男／ それがコロナの影響で結婚式が少なくなっちゃってしまっ  
女／ それで葬祭の方へ  
男／ はい、変わった当時は苦労しましたね、結婚式では常に笑顔だったんですが  
女／ ご葬儀では絶対に笑ってはいけない、でも  
男／ でも？  
女／ 知らず知らずのうちに微笑んでしまってますよね、  
男／ すみません、私、微笑んでなかったでしょう？  
女／ いいえ、大丈夫です  
男／ よかった、微笑まない方法考えたんですよ  
女／ どうするんですか？  
男／ 手の中に画鋏を握るんですよ・チクって  
女／ じゃあ、葬儀の間中ずっと？  
男／ ずっとです  
女／ 今でも？  
男／ もう(手を開き)大丈夫です  
女／ (コーヒーをカップに注ぎ)どうぞ  
男／ ありがとうございます

(二人飲む)

女／ こうやって、コーヒーの香りに包まれると、なんだか、あの人を思い出しますね

煎りたての豆で、飲む直前に挽かなきゃダメだ・・沸騰したてのお湯じゃ無く

・・手で入れなきゃダメだ：・注文が多くて

こだわりが多いんですよ

男／ そうですね：・同僚から感染して、でも、熱もなかったみたいでホテルで待機してたんですよ

携帯で、ずっと話していました。

俺がコロナで死ぬわけないからってまあ、静養と思っただけしばらく休んでるよ

二週間経ったらすぐ帰るからって・・待つてろって

でも・・容態が急変してしまっ

そうだったんですか

女／ あの人・・主人とはあの日。震災の日の夕方、避難所の中学校で再会したんですよ

主人とは幼馴染でした。すぐ二人で海岸に向かいました、そしたら：

そしたら

海が、燃えていました

男／

海が  
はい、船の燃料に火がついて、炎の波がよせてはかえして、また、よせて

・・古里が燃えていました

思わず、あの人の手を握ってしまいました、あの人も握りかえしてくれました

見上げると、見たこともない綺麗な星空。大きな満月が、赤く光っていましたね

海の炎を映すように・・真っ赤なお月様でした

赤い月ですか？

女／ 神様っているんだろうかって、あの人、呟いたんですよ

「神様は人間に手も貸さないし、言葉もかけない」

「ただ見ているだけ」、聞いたことあります、見られていることを感じて生きていくって

女／ もしかして、あの日の赤い月は、赤く泣き腫らした神さまの目だったのかもしれないね。

男／ それでは見本持つてきますので、しばらくお待ちください（去る）  
女／ （骨壺を両手で挟み頭をつける）

（呟く）『郭公（ほととぎす）声（こえ）横たふや水の上』

男／ （男、帰ってくる 女見て）あの主人でしようか？本当に、主人なんでしょうか？

・・・何も感じないんです。

あ・・・たまに病院で取り違えなんかあるじゃないですか  
・・・赤ちゃんの？・・・ですよね？

はい

男／ 残念ながら、昨日、お亡くなりになったのはご主人様だけですから  
女／ そうですよ、ほんとに・・・すみません・・・

（間）

女／ 夢枕に立つつていうんでしょうかね、主人は・・・あの日、見たんですって。避難所で  
男／ 奥さんと娘さんですか？

女／ 夢の中で、海岸をあの人先頭で、娘さんと奥さんが手を繋いで後ろを歩いていたそうです  
男／ そしたら奥さんが『郭公（ほととぎす）声（こえ）横たふや水の上』って言ったそうです  
女／ 俳句ですか？

男／ ええ、松尾芭蕉です、振り返ったら二人ともいなくて・・・目が覚めて気づいたら  
女／ 不思議なことに手の中に小さな貝殻を二つ、握ぎっていたそうです

ホトトギスは死を知らせる鳥と言う意味もあるそうです。

男／ すみませんね、変なことばかり言っています  
女／ いいえ、ご主人を亡くされたばかりですので

信じられないんですよね、去年、父の骨が見つかったと連絡がありました  
DNAの検査で99・99%一致したって言われて・・・100%じゃないんですね

女／ それで、もちろん骨は受け取ったんですが、今でも父は母と一緒に  
男／ いつか帰ってくるんじゃないかと思って、今でも二人を待ってるんですよね

女／ コーヒーお嫌いでしたか？あつ、お砂糖忘れてました：主人がいつもブラックだったもので  
男／ お願いします（話している間に砂糖を5〜6回入れる）  
女／ （コーヒーを注ぎ足し）主人とは、休みの度に、一緒に家族を探しましたね

震災から六年経って、七回忌が終わった後に、  
俺はこれからもずっとずっとと家族を待ち続けると思う、それでもいいなら  
家族になつてくささいって。すみません、一人で喋つてばかりで

男／ いいえ、思い出す事・・・語り継ぐ事が一番の供養ですからね  
（ランタンを出し）組み立ててよろしいでしょうか  
女／ お願いします

男／ （組み立てながら）あの日、山形の結婚式場で司会をしていましたね。  
地震が来て、次の日、すぐ地元に向かったんです

女／ 地元はどちらで  
男／ 女川です。ラジオのニュースで三陸の海岸に数千のご遺体が打ち寄せられているって・・・  
女／ 女川が壊滅したって

壊滅ですか  
壊滅壊滅って言う言葉だけが一人歩きをしてて  
街につくともうそこは見慣れた町ではなかったですね  
船と車と建物が泥だらけの、1つの塊になって、そこから中に転がっていました  
しばらくして、病院に大きな垂れ幕が下がっていたんですよ

「女川は流されたのではない。新しい女川に生まれ変わるんだ」  
地元の中学生が書いた詩らしいです。

女／ 希望を捨てない限り壊滅なんてありえないんですよ  
パンドラの箱みたいですね・・・自然災害や疫病、恐怖、絶望、死、ありとあらゆる

男／ 災いが飛び出して来て、最後に  
女／ 最後に残っていたのが・・・希望  
希望がある限り、壊滅なんてないんですよ

男／ (コーヒー飲み干して) ご馳走さまでした  
 女／ 綺麗・・  
 (二人眺める)  
 男／ 見本はこのまま置いていきますので  
 女／ はい・・あつ、日どり決めなくてはいけませんね  
 男／ 天空葬でよろしいですか？  
 女／ はい  
 男／ (携帯で天気調べて) 明後日は、いかがでしょうか・・風もなく、それに、満月です  
 女／ 星空の中、満月に向かって昇っていくんですね  
 男／ いつか・・・巡り巡って・・また会えますかね・・  
 女／ ・・・はい・・きつと  
 男／ では、宜しくお願ひします  
 女／ ・・・では明後日、お迎えに参ります  
 男／ 18時でよろしいですか？  
 女／ 宜しくお願ひします  
 男／ 承知いたしました  
 女／ 待つてみようと思ひます・・私・  
 男／ あの人を待ち続けてみようと思ひます、ずっと、ずっと  
 女／ では・・満月の夜に  
 男／ ありがとうございます(見送つて、遺骨をランタンの下におき、見上げる)  
 女／ ねえ、明後日のお月さまは・・どんな色なんでしょうね

終幕

## 冬の夜の夢 ー忘れられた子供達ー

震災から十数年後の福島県浪江の住宅 女の部屋

津城人物

女 ウエディングドレスを着た娘

男 革ジャンを着た父の亡霊

ウエディングマーチの中

ウエディングドレスの娘と革ジャンの父が腕を組んで足踏みをしている

女は片手にワインの瓶、時々飲みながら

1 P

女／ お父、知ってる

男／ ん？

女／ バージンロードはね、花嫁がこれまでの人生を振り返りながら

新郎の元へ向かうんだって

男／ これまでの人生？

女／ 私の人生は：遠くに潮騒が聞こえる、福島県双葉郡双葉町で生まれました。

お母は実家の果樹園の手伝いをしていて

季節ごとにたくさんの果物が食卓に並んでいました

お父は東京電力、福島第一原子力発電所に勤めていて、趣味でロックバンドをしている・・・そんな両親の間に生まれました。

男／ 違うだろ  
女／ 何が？  
男／ 趣味でロックやってるんじや無くて  
女／ ロックンローラーが趣味で会社員やってるの  
男／ はいはい、幼稚園の時、お母が病気で亡くなりました  
女／ 急だったな  
男／ それからはお母の代わりになり、料理も作ってくれました  
女／ エプロン似合ってた？  
男／ 中学の時、東日本大震災で故郷がなくなりました。（外見て）ねえ、雪だよ  
女／ 雪だな  
男／ 一つ聞いていい、どうして再婚しなかったの  
女／ 一つ聞いていいか、何でこんな格好してんだ俺  
男／ 小学校の時約束したでしょ  
女／ 約束？  
男／ お父のライブの時、バージンロードはその格好で歩いてって、それに  
女／ 余興で何か歌ってって  
男／ 花嫁の父は余興やらんだろ  
女／ よく歌ってくれたじゃない、スキー場行く時  
男／ 猪苗代スキー場な、なんかさ、お母が亡くなってから  
女／ お前を男の子の様に育てたような気がするな  
男／ お陰でスキー大会ではいつも一等賞だったよ  
女／ 俺の応援が効いたんだよ  
男／ もっとお父に色々料理のレシピ聞いとけば良かったな  
女／ ボルシチとかレンズ豆のキーマカレー？  
男／ 目玉焼き  
女／ あの？

女／ 目玉焼き

男／ なんぞ

女／ 全然違うんだもん、お父の目玉焼き

男／ 単純な物ほど奥が深いからな、

じゃあ簡単に説明しよう。まず卵を割って小皿に取って

ザルに丁寧に乗せて3分くらい水切りするんだよ

それをフライパンに入れて焼くだけ

女／ 料理は愛情と一手間だね

男／ ・・いつまで歩いてんだ

女／ ずっと振り返っていたいんだもん

男／ で、旦那は？

女／ いないよ

(二人歩きを止める)

2 P

男／ いないって

女／ キャンセルになったんだよ・結婚

男／ キャンセル？？

女／ (椅子に座り飲む) だからこうやって飲んだくれて、クダ巻いて

一人結婚式やってるんだよ

男／ 一人結婚式ってな

女／ お父が見えるなんて、よっぽど酔っ払ってるんだわ

男／ 俺が見える？

女／ だって、死んじゃったんだよ・お父

男／ そうか・震災から

女／ 2年後に喉頭ガンでね

男／ 声出なくなっただんだな・・・  
 女／ 思い出した？  
 男／ ずっとイチエフにかかりつきりだったからな  
 女／ バンドのメンバーはみんな避難してしまったし  
 男／ 俺さ病室でずーっと考えていたんだよ  
 女／ 何を  
 男／ 俺が最後に歌いたい歌って何だろうって  
 女／ 何だったの？  
 男／ 考えてる最中に亡くなったみたいだ  
 女／ 今日歌えばいいじゃん  
 男／ 俺、幽霊か  
 女／ 夢かな・・・冬の夜の夢だね  
 男／ 夏の夜の夢は妖精パックが出るけど、冬の夜の夢は父の亡霊が出るってハムレットか！  
 女／ ねえ、いくらしたのその革ジャン  
 男／ 東京の出張の帰りか、新宿の伊勢丹で目が合っちゃってさー  
 女／ 誰と？  
 男／ コイツだよ  
 女／ 革ジャン？  
 男／ イタリアのレザー職人が一月かけて作るんだって、値段見たら二百万円  
 女／ 二百万、安！  
 男／ レジ持って行ったら・・・桁違ってた  
 女／ 二百万、高！で  
 男／ 三年ローン組んだんだよそしたら、お母にバレて三年間お小遣いなしだ  
 女／ そこまでして  
 男／ だって、目が合っちゃったんだもん  
 女／ でもなー、これでお前とバージロード歩けたから、元とったな

男／ 旦那ってどんな奴

女／ 大学の先輩

男／ 大学受かったんだ、おめでとう

女／ ありがとう

男／ 頑張ったな

女／ 頑張った

(間)

女／ 先輩の家は有名な造り酒屋でね、お父さんは県会議員もやってて政治家か

男／ 初めはお父さんが反対してたんだ、両親がいないからって

女／ 俺のせいか

男／ お父のお陰、震災の時、原発事故から日本を救ったって知って

女／ それで賛成してくれたんだよ

男／ じゃあ何で

女／ 原発が爆発して直ぐ、飯舘村に避難したでしょ、

男／ ああ

女／ その夜ね、街明かりが全部消えてて

男／ 星が輝いていたんだよ・・見た事ないくらいに、

女／ 突然、風に乗って雪が降って来て

男／ まるで、星が降って来たみたい

女／ あの日、雪が降らなきや放射能の雲は宮城県に流れて行ったんだって

男／ あの日の出来事が本当に、冬の世の夢だったらな

(間)

女／

男／ 100万人にひとりだったんだよ  
何が

女／ 子供の甲状腺癌。それが38万人調べて300人以上見つかったんだよ

震災前の千倍だよ、でも放射能のせいじゃないって、検査が増えたから見つかった  
ただだって、他の県で調べてもそんな感じなのかな。

男／ お前

女／ うん、検査で見つかったね、すぐ手術したんだ

男／ 体は大丈夫なのか

女／ 頭がぼーっとしてね、ずっとだるいんだよ、一生ホルモン剤飲み続けなきゃ  
なんなくてさ、結婚も就職も諦めた子も多くてね

私達は隠されて・・忘れられた子供達んだよ

(間)

女／ 首に傷痕残ったから、ずっとスカーフで隠してたんだけど

男／ けど？

女／ 傷痕見られちゃってさ

男／ 旦那に

女／ うん、初めてのエッチの時ね

男／ 親父にする話じゃねーな

女／ いいじゃん、幻なんだから、でも、彼は、親が気にするから言わなくていい

俺は全然気にしないって

男／ いい奴だな

女／ 優しい人なんだよ

(間)

女／ でも結婚式の前に両親に知られちゃってさ

お父さんが調べたんだって、県会議員だからね色々

それで、やっぱり結婚は反対だった

男／ 何で？

女／ 後継ぎの子供に何かあったらどうするんだって

男／ 俺行つて、ぶん殴つてやろうか  
女／ お父、死んでるんだよ  
男／ じゃあ、憑依して呪い殺してやる  
女／ 怖いよ  
男／ で、彼はどうしたんだ  
女／ 家出てね、二人だけで暮らしてもいいって言ってくれたんだけど  
男／ 間に入ってたお母さんが・・倒れちゃったんだよ、それで申し訳ないけど・・  
女／ 別れてほしいって？  
男／ ・・・優しい人なんだよ

4 P

女／ お父、お母のウェディングドレス着せたいって言ってたでしょ  
男／ それ？  
女／ だから実家来たんだよ  
男／ 帰宅困難区域解除になったのか  
女／ まだ  
男／ じゃあどうやって  
女／ ここで育ったんだよ裏道ならいっぱい知ってるよ  
男／ 実家に戻って、最後にお母のウェディングドレス着たかったんだよ  
女／ 最後って・・お前  
男／ ね、天国ってどんなところ？  
女／ ん？  
男／ 何があるの？  
女／ ・・なんも無いな  
男／ 教会は？  
女／ 無いよ

女／ 何で？

男／ 迷える人がいないからな、病院も無いな

女／ 病院

男／ 病の人がいないんだよ、学校も警察も…裁判所もない

女／ 愚かな人がいないんだ…何があの？

男／ 豊かな自然だけだよ、季節ごとに果物が実り、遠い潮騒

女／ 田園の風や光に…ただそこにあるもの全てに愛を感じるんだよ

女／ それってさ…私達の無くなった、故郷じゃない

(間)

女／ …私も早く行きたいな天国

男／ それはダメだな

女／ どうして

男／ 天国はな、善人だから行って行けるわけじゃないんだ

女／ じゃあ、どんな人が

男／ 自分の人生っていうか、運命って言った方がいいのかな、それに向き合って

女／ 最後まで戦った人だけが行けるんだよ

男／ だから頑張れ、そうやって管巻いてないで、俺がネジまいてやるから

女／ 親父ギャグ？

男／ 昔よくやったらゼンマイ巻いて

女／ ああ、ゼンマイロボットね

男／ 行くぞ ギリギリ、ギリギリ(ネジを巻く)

女／ (ロボットの様な動き)こんどは私がギリギリ、ギリギリ

男／ (早い動き)

女／ 早っ！暴走してるし

男／ しやーない、俺も付き合ってやるよ一人結婚式、次は？  
 女／ じゃあ、キャンドルもケーキも無いから、娘から両親への手紙だよ  
 男／ それ、やっぱやるのか  
 女／ ・・んん、あー本日は晴天なり  
 男／ 雪降ってただけど  
 お父は、お母が亡くなってから、一人で私を育ててくれました  
 お父は、時には・・父であり、母であり・そして・ヤンチャなアニキでした  
 あの日、原子力発電所が爆発して、故郷がなくなりました  
 お父が命がけで、日本を救ってくれました  
 お父は私のヒーローです  
 俺は、日本を救おうなんて思ってたよ  
 お前だよ、お前の為に、戦ったんだ えーつと、歌ってもいいんだよな  
 女／ もちろん  
 男／ 何歌う？  
 女／ リクエストしていいの  
 男／ ああ  
 女／ 「雪が降る日に」がいいな  
 男／ ロックじゃないのか  
 女／ いつもスキーに行く時歌ってくれたじゃん  
 男／ そうだったな（ギター弾く）やっとなわかつたよ  
 女／ 何が  
 男／ 最後の歌  
 女／ 最後に歌いたい歌？  
 男／ 歌じゃなかったんだよ  
 女／ 歌じゃない？

男／ 何を歌うじゃ無くて、誰と歌いたいかだつたんだよ

女／ 一緒に歌いたい人？

(弾き始める)

二人／ 「雪が降る日に」を歌う

終幕

SAKURA 一 津波の海

東日本大地震から数十年後の宮城県沿岸部の臨海公園。  
夕暮れ。海岸沿いに水産工場が並んでいる。

登場人物

女 津波の影響で短期記憶障害

男 妻が津波で行方不明

海に面した公園のベンチに女が座って海を眺めている。  
り道具を持った男登場。女を確認して声をかける。

1 P

男／ こんにちは。

女／ こんにちは。

男／ あれ…こんばんはですかね。

女／ 微妙ですからね、この時間帯は。

男／ はい。

女／ どうぞ。(ベンチの片方を譲りながら)

男／ あっ、どうも。(釣り道具を出す)

女／ 釣りですか。

男／ はい。…お一人ですか。

女／ はい。  
 男／ こんな時間ですけど？  
 女／ 自宅が（指差しながら）あそこの水産工場なんですよ。  
 男／ （そっちを見て）はー。  
 女／ あとこれ。（スプレー缶を出す）  
 男／ 何ですか？  
 女／ 熊よけスプレー。  
 男／ 人間にも効くんですか？  
 女／ 試してみます？  
 男／ いやー遠慮しておきます。  
 女／ んじゃ、やめときます。  
 男／ 助かります。  
 女／ （笑う）何が釣れるんですか。  
 男／ ハゼ狙ってます。白身が美味いんですよ天ぷらにすると。  
 女／ そんな秋に釣ったらワタ抜いて焼いて天日干しにして  
 女／ 天日干し？  
 男／ お雑煮の出汁にするんですよ。やっぱねー、仙台雑煮はハゼじゃないと。  
 女／ 仙台からですか？  
 男／ はい。  
 女／ どれぐらいですか？  
 男／ そうですねー…モノにもよるんですけど、大体一連が7匹から10匹で5〜6000円です  
 女／ かねー。もうすっかり高級魚になっちゃって。そんなでもせいぜい中指ぐらいの大きさなん  
 女／ ですよ。昔はお腕からはみ出るぐらいデツカかったんですけど……  
 女／ すいません、あのー………時間がどれぐらいかなと思って、仙台からの。  
 男／ ……三陸道で1時間ぐらいです。

女／ 前にお会いしたことあります？

男／ はい？

女／ 私すぐ忘れちゃうんですよ。短期記憶障害っていう病気なんです  
男／ 知ってますよ。

女／ 私を知ってるんですか？

男／ いや、短期記憶障害のほう。  
女／ ですよね。

男／ 昔のことはよく覚えていますが、今日の出来事は一晩眠ると忘れてしまおうでしたっけ。  
女／ よくご存知ですね。

男／ そういう映画、昔あいつと…奥さんと見たんですよ…なんだっけな。

女／ 「50回目のファースト・キス」か。

男／ へー。こんなの映画になるんだー、メモしていいですか。  
女／ どうぞ。

男／ (メモりながら) 高校時代のことまでは覚えてるんですよねー

女／ 高校時代。

男／ はい。もうHuhuhuん十年前ですよ。  
女／ んんんんんん。

男／ 朝の目覚ましの音が、自分の声で「まず手帳を見て」「まず手帳を見て」  
女／ で、枕元にこの手帳があつて。

男／ それにメッセージが。  
女／ はい。

男／ 映画ではビデオメッセージだったかな。

3月11日の卒業式のリハーサルの人に大きな地震があつて津波が来ました。津波に吞まれて  
男／ て気を失ったけど、運良く助けられました。でも、頭を打ったせいで短期記憶障害になりました。  
女／ した。ここは私の部屋で建て直した工場の自宅に住んでいます。仕事は工場の手伝いをして

男／　　います。家にいるのは年とった弟の秀明です。わからないことは聞いてください。  
女／　　残念ながらお父さんとお母さんは未だ行方不明です。  
男／　　そうなんですか。  
女／　　はい、津波で工場ごと流されたんだそうです。  
男／　　（何度かうなづく）  
女／　　で、最後に机の引き出しに鏡が入っています。自分の顔を見て、この話を信じてください…  
男／　　って言われてもドッキリじゃないかって思いませんか？  
女／　　んーまあ普通はね。  
男／　　ね。何がいちばんびつくりするかって言ったら、鏡見て「だれこのおばさん？」って思った  
女／　　ら自分だったってことですよ。でもね、一つだけ嬉しいこともあったんですよ。  
男／　　なんですか？  
女／　　歯並び。左の犬歯が八重歯だったんですね。いつか大人になったら絶対治そうってずっと思  
男／　　ってたんですよ。  
女／　　八重歯かわいいと思いますけどねー。  
男／　　なんかキバっぽくて嫌だったんですよ。弟と一緒に歯医者さんに通ってくれたみたいで。  
女／　　弟さんは？震災の時。  
男／　　小学校の屋上に逃げて助かったんだそうです。  
女／　　そうですか。  
男／　　はい。弟も父の年を超えちゃいましたねー。今や父親がわりですよ。あの熊よけスプレーも  
女／　　弟が持たせてくれたんですよ。  
男／　　頼もしいですね。  
女／　　そうなんですけどね…：…いまだに独身ですよ。  
男／　　私の面倒見るために結婚もできなかつたんだなーって思ってたけど…：  
女／　　けど…：  
男／　　モチないんですよ、ホントは。（笑）  
女／　　…：…ちよっとコメントできません。

もう春ですわねー。

すっかり暖かくなりましたね

でも私、昨日、地震があつて、雪だったじゃないですか、朝起きるといきなり桜が咲いてるんですよ…、もうなんて言うか

タイムマシンに乗って来たような

大きな防潮堤とか復興した町とか…一番びっくりしたのは気仙沼の大島に橋がかかったことでしたわね。昔はフェリーですよ

カモメにカッパえびせんやりながら？

そうそうそう、それで気仙沼音頭が流れる中、亀山リフトで登るんですよ。

(間) …あ、スミマセン今更ですけど、内海です。

うちの奥さんも旧姓内海でした。

そうですね！この辺り内海が多くて、同じクラスに5人いましたね。

あいつは6人いたって言ってましたね。

こちらのご出身なんですか奥さま？

はい湊中学から、湊高校でした。

じゃ、先輩ですわね。

山本です。山に日本の本(手で描く)

(メモする)今日はご一緒じゃないんですか、奥さま。

はい、実は…あいつも津波で流されてしまつて。

…ごめんなさい。

いえ。あいつの両親と一緒に流されたんですよ、両親は見つかったんですけど奥さまはまだ？

はい。月命日にはお墓参り行つて、夜は天気が良ければこうやつて

夜釣りに来たりしてるんですよ。あいつと一緒によく来てたんもんで。

へー。奥さまも釣りが好きだったんですか。

男／ 私よりガンガン釣ってましたねー。  
女／ すごいなー先輩！  
男／ でもね。  
女／ はい？  
男／ エサつけるのが苦手で、それは私の担当でしたね  
女／ ゴカイとかミミズですもんね。  
男／ いや、釣り針で爪が傷つくのが嫌だって言うんですよ  
女／ あら。  
男／ 自慢だったんですよね、いつも綺麗にマニキュア塗ってて、薄いピンク色の。  
女／ 桜色ですね。  
男／ はい、でも、ほら……なんだっけ、足のマニキュア。  
女／ ペディキュア？  
男／ 塗るのへタツピなんですよ。体が硬くて中々手が届かないんですねー。だからいつも膝の上  
女／ に片足乗せてこうやって塗ってましたね。(ポーズ)これ、なんか似てませんか？  
男／ もしかして弥勒菩薩。  
女／ 半跏思惟像。よくからかってましたね……こうやって(合掌して)ナムナム。  
男／ (笑う)でも笑えない。私もおなじだわ。  
女／ ペディキュアですか。  
男／ 爪切り。足こうやって、けっこう疲れます。  
女／ (ポーズをとっている女を拝む)ナムナム。しかしおかしいですよ、何か手がかりが見つか  
男／ るまではって、意地んなってお葬式あげてないのに月命日には空っぽのお墓に向かって  
女／ ナムナムですからね。  
女／ (合掌)……  
男／ 巨理町で魚の網で骨が見つかったそうなんですよ、先月新聞で読んだんですけど。  
女／ そんなでDNAを調べたら  
女／ わかったんですか身元が？

男／ はい。でも探し続けていたご両親はもう亡くなっていましたね。  
女／ はあ……………。

男／ 毎日探してたなー。遺体安置所に通ってあの頃は。泥だらけで、顔の分からないご遺体も  
多かったんですけど、でも爪見ればわかるんじゃないかって思っていましたね。

女／ 桜色の爪ですか。  
男／ はい。

女／ (手帳を見て)私も両親を探したみたいですね遺体安置所で。2011年4月1日、今日も見  
つかりませんでした。4月2日今日も見つかりませんでした。3日も4日も。ズーっとおん  
なじ。4月8日桜が咲きました。もう春も来ないと思ってたのに津波で傾いた桜に花が咲き  
ました。4月11日、初めての月命日、雪が降りました。  
桜の花の上に雪が積りました。あの日降り残こした雪でしようか。

男／ 4 P  
女／ 良かったらコーヒーいかがですか。(コーヒーを注ぐ)  
男／ ありがとうございます。…この公園は部活の帰りによく友達と来てたんですよ

女／ 桜の木もずいぶん大きくなりましたねー  
男／ 部活かー。懐かしい言葉だなー。

女／ 文芸部だったんですよ、地味に。夏はここでガリガリ君、冬は肉まん食べてたなー。  
海がすぐそこにあって、桜の木が沢山あって、桜の季節には先生も一緒に皆んなで

男／ お花見しましたね。顧問も吉川先生だったんですよ。  
女／ どうぞ。(コーヒーと、ミルクだけ女に渡す)

男／ ありがとうございます…あれ、私言いましたっけ？  
女／ はい？

女／ コーヒー、ミルクだけ入れるって。  
男／ あー…つと…すいません砂糖忘れました。

女／ そうですか。(ミルク入れながら)いいんですよ。

男／ このあたりでも、桜咲いてから雪降ることあるんですか。  
女／ ありますよ。

男／ そう言えば仙台でもゴールデンウィークに降ったことあったしな。

女／ え、ゴールデンウィークにですか？

男／ はい、ずいぶん昔ですけどね。

女／ (コーヒー飲みながら) ふくん(メモを見て) なんか破れてるページもあるんですよ。  
男／ どれも月命日のページなんだけど。

女／ 月命日。

男／ はい。なんだろ。あとから読んで…しんどくなつて破つたのかな。

女／ 私も月命日には休みもらつて、昼は両親や吉川先生、それから友達のお墓参りして  
男／ 夜はこうやって海見ながら昨日…じゃなくて、あの日を想い出してるんですよ。

女／ ……あの日を思い出すのって辛くないですか。

男／ ……あ、正直、なんかあんまり実感がないんですよ。お墓参りすれば墓石に平成23年  
女／ 3月11日の日付があつて、本当に本当なんだなつて思うけど、悲しいより先になんで私だ  
男／ けこんなんなつてまで生きてんだらうつて思うんですよ。なんか、申し訳ないつて言うか。

女／ サバイバーズ・ギルトですね。

男／ サバイバーズ・ギルト？

女／ 残された者の罪悪感ですね。私もね、今でも…なんで自分だけがつて思つてますよ。  
男／ 今では3月11日に新聞に小さく「震災から何年…死者2万人、行方不明者

女／ 2500人」つて書かれるだけですからね。なんか数字だけが一人歩きしてるみたいで。

男／ 一人一人に家族がいて…待ちつづけている人がいるんですよ。

女／ 「津波でんでんこ」つていうじゃないですか。

男／ はい。津波が来たら家族バラバラに逃げろつていう。

女／ あれ、他にも意味があるんですよ。

男／ なんですか。

女／ 誰か一人でも生き残つたら、亡くなった家族の分まで精一杯生きろ。

男／ 誰か一人でも生き残つたら、亡くなった家族の分まで精一杯生きろ。

女／　　そして亡くなった人たちの供養をして、語り継ぎなさいって  
男／　　そつかー。生き残った意味があるんだ………。

女／　　はい。こうやってあいつのこと話せるのは、あなたのおかげですから。  
男／　　……役に立ってますか。こんな私でも。

女／　　（うなづく。ウキを取り出し点灯させながら）釣りしてるとね、ウキがこうやって  
男／　　小さな波で揺れるんですよ。それがなんかモールス信号みたいに感じるんですよ  
女／　　そういえば、モールス信号でS O Sを初めて使ったのはタイタニック号なんですって。  
男／　　へー、あの氷山にぶつかった？

女／　　はい、担任の吉川先生に教えてもらったんです。現国と古文を教えてたんですけど  
男／　　授業がもう横道に逸れまくりで、でも、そういう話の方がよく覚えてるんですよ。  
女／　　そのウキの動きが、なんだかあいつからのサインじゃないかなんて  
男／　　いいおっさんが乙女チックなんですけど

女／　　モールス信号お詳しいんですか？

男／　　はい、一文字だけ。

女／　　えっ？一文字だけ？

男／　　トントーン・ツー・トン。

女／　　何の文字ですか。

男／　　アルファベットのQですよ。

女／　　Q。

男／　　それを三つ並べてサンキュー。

女／　　……駄洒落？

男／　　メールの最後によく使ってたもんで。

女／　　（笑）サンキューカー（メモする）。

男／　　5 P

（あたりの桜を見回しながら、独り言のように）なんかほっとするんだなー…

女／ なんですか？

男／ 4月の月命日は。やっぱり、桜のおかげですかね。

女／ かもしれないですね。お花見しながら、即興で俳句詠んだことありましたね

男／ 風流ですねー。

女／ 「夕暮れて 桜ひとひら 朱に染まり」

男／ いいですねー。

女／ 吉川先生の作品ですよ。私のは「月あかり 白く輝き 雪桜」

男／ いいですねー。

女／ 季語が月と雪と桜でどの季節か分からんって！！ダメ出しされましたけど残念ですねー。

男／ この時間が好きなんですよ。桜が夕焼けでオレンジ色に染まって、だんだんと月明かりで雪みたいに白く輝いて来るんですよ。：モーンガータって知ってますか？

男／ モーンガータ：英語ですか？

女／ スウェーデン語ですね、月の光が海に映って道のように見えることなんですよ。

男／ おおおー…：綺麗でしょうねー。

女／ その道を渡っていくと懐かしい人たちに会えるって言う伝説もあるんですよ。

6 P

男／ 去年母を見送ったんですね。

女／ お母さまを。

男／ はい、癌が見つかって余命三ヶ月って言われたんですけど、でも

半年頑張ってくれましたね。母の子供の頃の事や…

私のお小さい頃の話がたくさんしましたよ。私の最初の記憶は母におんぶされて

なんか…：武士が馬に乗って、弓的を射っているんですね。

女／ 江戸時代ですか？

男／ まさか、吉岡八幡神社の流鏝馬でした。

女／ 吉岡八幡神社？

男／ 宮城県大和町にあるんです。私が2歳の時連れてつてくれたらしいんですけど

そんな話しながら、半年掛けてゆっくり別れを覚悟できましたね。

女／ 時間って必要ですよ、別れを覚悟するには

男／ 母もそのモーニングカーを渡って行っただけですかね、親父が途中まで迎えに来たか

女／ もしれないな、仲良かったから。

女／ うちの両親も普段は仲がいいんですけど、きのうはもうホンットつまらない事で喧嘩したんですよ。あつすみません、私の昨日って、あの日のことなんですけど。

男／ はい。

女／ 食べ物の話になるとお互いゆずらないんですよ。

男／ あらま。

女／ 卒業式の後に家族で食事会しようって話しになったんですけど、母は寿司がいい父は鰻がいい

男／ つて言い張るんですよ

女／ で、どうしたんですか？

男／ そういう時おとなってズルいんですよ。私と弟で決めろって

女／ おとなの事情ですわー。

男／ ねー。すごいいい天気でしたよ、昨日は。昨日つてすみません、また言っちゃった。

女／ (コーヒー飲む) 明日の卒業式もきつと晴れるねって言って、みんな

男／ パイプ椅子並べて、吉川先生が校長先生の代理で卒業証書渡す練習してた時に

女／ 大きな揺れがきたんですよ。天井の照明がガチャガチャいって、吉川先生が

男／ 「パイプ椅子頭の上に！」って叫んで、跳び箱が崩れて、バレーボールのカゴが倒れて

女／ ボールが生きてるみたいに飛び跳ねてて。

男／ 先生が、ここは地域の避難所になってるから安全だから家族が迎えに来るのを待ってって

女／ つて。すぐ近所の人たちが避難して来て。男子は倉庫から備品の毛布を運んできて。

男／ 女子は避難して来た人達の確認の手伝いをして名前や連絡先なんかをまとめて。

女／ 外を見ると急に雪が降り出してきて、そんな時に、なんの音もなく急に体育館の中に

男／ 波が流れ込んできて、ステージの上に逃げて、流されて  
……そこから先の記憶がないんですよ。  
女／ あいつも両親と一緒にそこに避難したはずなんですよね  
男／ 仙台じゃなかったんですか？  
女／ はい、出産が近かったんで里帰りしてたんですよ。  
男／ ……じゃあ、お腹にお子さんが……  
女／ ……女の子っていうのはわかってたんですけどね。  
男／ 覚えてますよ、妊婦の方が一人いらっしやいました、ご両親と一緒に……確か連絡先の  
住所が仙台で、ご主人が今こつちに向かっているって聞きました、グレーのコートに  
チェックのマフラー巻いてました。  
男／ そのご主人……いえ、主人が私です……待っていてくれたんですよ。

7 P

男／ 先月、3月11日に海岸で手がかりを探したんですよ、そしたら……  
女／ なにか見つかったんですか。  
男／ （小さな桜貝を出す）  
女／ 桜貝？この辺じゃ珍しいですよ。  
男／ 一瞬、あいつの爪じゃやないかなって。  
女／ 潮の流れに乗って遠くから流れてきたんでしょうね。  
男／ それで、この桜貝をお墓に入れて、お葬式あげてやろうって……決心しました。  
女／ 今日はそれを報告に来ました。  
男／ ……どなたに。  
女／ いや……あいつに、ですね。  
男／ そつか。モールス信号ですね。  
女／ ……海に流された人は何処に行くんでしょうね。  
男／ ……銀河ステーションですよ。

男／ 銀河ステーション。

女／ そう、モーンガータを渡って。先週の：吉川先生最後の授業が宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」だったんですね。銀河鉄道には氷山にぶつかって船が沈んで亡くなった青年と兄弟が乗ってくるんですよ。多分タイタニック号のことだろうって。それでジヨバンニとみんなで讃美歌を歌う場面があるんですね。

男／ 讃美歌。

女／ 讃美歌320番（唄う）主よみもとに近づかん

男／ …海で亡くなった人たちも、銀河鉄道に乗れるんですね。

女／ はい、みんなで天国に向かうんですよ。

…：授業の最後に先生が「この世の中には、たった一つだけ無限のものがある」って言ったんですね。

男／ 無限のもの…。

女／ 何だと思います？

男／ んー…想像もできんなー。

女／ 正解。

男／ え？

想像力ですよ。人は想像力によって、遙かな宇宙の涯に行くこともできるし太古の昔に行くこともできる。

男／ そーかー…想像すれば、あの日に戻って、懐かしい人に会うこともできるんですね

女／ （空を見上げて）銀河鉄道の窓から誰かが手を振っているのが見えますよ。

あつ…グレーのコートにチェックのマフラーを巻いて、大きく手を振ってる。

はい、見えます、見えました。あつ…隣にもう一人。

女／ もう一人？

男／ 小さな女の子が…一緒に手を振ってる…（手を振って）オーイ、オーイ。

女／　じゃあ、私そろそろ帰りますね。

男／　はい。

女／　ご馳走様でした（コーヒーカップを返す）。

男／　気をつけて。

女／　はい。そちらも。

男／　（座ったままお辞儀する）

女／　：ハンバーグでしたよ。

男／　はい？

女／　卒業式の帰りの食事会、弟の大好物なんですよ。

男／　ハンバーグ、私も好きです。

女／　たくさん釣れるといいですね。

男／　ありがとうございます。あいつのこと誰かに話すなんてホント久しぶりです。

女／　思い出すことが一番の供養じゃないですか。

男／　はい。

女／　（帰りかけるがメモしてたページを破り、立ち上がって男に渡す）

男／　またお会いできるといいですね。そしたら、また聞かせてもらえますね、奥さまの話。

女／　（受け取って）はい、また聞かせて下さい、あいつの話。

男／　じゃあ、また。

女／　また：桜の季節に。

女去る。その後ろ姿を見送る男もらったページを脇に置き、バッグから

ジップロックを取り出す。以前にもらったページを取り出し、新しいページを

その上に乗せ、またしまう。しばらく海を見つめ月明かりに照らされる中、合掌する。

波の音に紛れて遠くから讚美歌「主よみもとに近付かん」が聞こえてくる。

終幕

お問い合わせ

Gin. s Bar ホームページ

<http://www.ginsbar.com>

YouTube ホームページ検索 「ギンズバー」